

中宮まぶね保育園

5月の園だより



2022年5月2日発行

4月の懇談会は、ご多忙の中、多数の参加をいただきありがとうございました。さて、新年度のスタートから早くも1カ月が経ちました。子どもたちも新しい環境に徐々に慣れてきたようで、さわやかな風が吹く青空の下、元気に園庭を走り回っています。また、5月5日は端午の節句『子どもの日』。園庭にはたくさんの鯉のぼりが泳いでいます。今年も園では行事などを通じて、由来や昔からある伝統などを子どもたちに伝えていきたいと思っています。

中宮まぶね保育園 園長 松尾 太郎

よい子ネット登録のお願い

緊急時や特別なお知らせ等が発生した場合に、よい子ネットからメールを配信しています。まだ登録されていない方は早急に登録をお願いします。
※きょうだいが在園している家庭は「きょうだい登録」もお願いします。

5月の行事予定	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	2 発育測定 体育あそび教室	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 ダンス教室	7	
8	9	10	11	12	13	14	
	9 体育あそび教室	10 布団乾燥 英語あそび教室 園庭開放	11 春の健康診断 心れあい体験 園庭開放	12 4歳・5歳遠足	13 3歳遠足	14	
15	16	17	18	19	20	21	
	16 体育あそび教室	17 園庭開放	18 布団乾燥 太鼓教室	19 園庭開放	20 ダンス教室	21	
22	23	24	25	26	27	28	
	23 体育あそび教室	24 英語あそび教室 園庭開放	25 誕生日会 太鼓教室 無料法律相談	26 園庭開放	27	28	
29	30	31					
	30 体育あそび教室	31 園庭開放					

☆苦情解決委員会☆

- ◎苦情解決責任者 松尾 太郎
- ◎苦情解決窓口担当 山庄司 美保
- ◎苦情解決第三者委員 申 英子
畑 健次郎

※意見箱は玄関ホールに設置、園に対する苦情やご質問・ご要望等を受け付けております。又、子育てやそれらに関するご相談も随時受け付けております。

《法人の理念》

本法人の理念「隣人愛」の精神に基づいて福祉サービスを提供するすべての人に仕え、日常を支援し、常に人々の人権を護り、その人の尊厳を尊重します

《保育園がめざす子ども像》

- ◆自分で考え意欲を持って行動する子ども
- ◆相手を思いやることのできる子ども
- ◆健康で生き生きと遊べる子ども
- ◆豊かな感性を持ち、かいっぱい表現する子ども

社会福祉法人 日本コイノニア福祉会

中宮まぶね保育園

〒573-0011 枚方市中宮山戸町15-1

Tel./072-840-2780 fax/072-840-3212

E-mail nakamiya-encyo@koinonia.or.jp

URL <http://www.koinonia.or.jp/nakamiya/>

5月生まれのおともだち

- ほたる組
- ちょうちょ組
- こおろぎ組
- てんとう組
- みつばち組
- とんぼ組

春の遠足

- 12日(木) 5歳・交北公園
- 12日(木) 4歳・交北公園
- 13日(金) 3歳・堂山公園

雨天の場合は園内でお弁当を食べます



★入園したおともだち★



☆退園したおともだち☆



お世話になりました

▼退職した職員

【今月の聖書の言葉】

「子どもたちを私のところに来させなさい」(マルコによる福音書 10章14節)

5月になりました。先月には小さな乳児さんたちの泣き声が園内ににぎやかに響いていましたが、新入園の子どもたちも少しずつ先生たちやお友だちの顔を覚えて来て、保育園を自分の居場所として安心して毎日を過ごしてくれるようになって来ています。日々の子育てや保育の中で、子どもたちの反応は率直で、直球ですから、「子どもたちを大切にしたい」というこちらの想いが伝わって喜んでもらっていると、こちらでも嬉しくなります。

しかし、歴史を振り返ると、「子どもを大切にしたい」というのは、決して当たり前のことではありませんでした。イエス様の時代には、乳幼児の死亡率も高く、貧しさのために子どもが奴隷として売られたりすることもよくありました。子どもの権利などというものが、全く考えられていない時代に、イエス様は「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」と言って、子どもたちを一人一人抱きしめられました。

子どもの人権や、子どもたちを大切にしたいという考えは、ここから始まったものかもしれません。いつも私たちの隣には、「私のところにおいて」と呼びかけてくださる方がいます。いつも一緒にいてくださるイエス様に助けられながら、目の前の子どもを大切にするという命のバトンを未来へと確かに渡して行きたいと願っています。

チャプレン・牛田匡